



教育課程事前授業が行われました

2学期が始まり、運動会、文化祭、音楽会などの行事に向け、忙しくも充実した日々を過ごされていることと思います。来月には、教育課程研究協議会が予定されています。今年度は、中川中学校の寺平有希先生が授業をしてくださいます。それに先立ち事前授業が8月31日に行われました。

寺平先生は、コロナ禍の中制限されてきたり、マスクをして歌うことが当たり前となっていたりした歌唱について、コロナ禍の影響を大きく受けてきた子どもたちがのびのびと歌唱に取り組み、その素晴らしさ、心地よさを感じてほしいという願いのもと、研究を進めておられます。中川中の研究テーマ「自立した学習者の育成を目指して」というテーマに基づき、「音楽科における自立した学習者とは」「歌唱の授業で子どもたちが自立して学習する姿とはどのような姿なのか」また、そのために教師には何ができるのか、寺平先生の実践から学ばせていただきたいと思います。



教育課程事前授業 授業者：寺平有希先生

【授業の概要】

- 1 題材名 「曲想の変化を感じ取って表現を工夫して歌おう『時の旅人』」
- 2 題材設定の理由

〈生徒の実態〉

- ・自分の意見をもって表現したり、仲間と話し合って意見をまとめたりするような活動に苦手意識を持っている。
- ・鑑賞の題材が好きな生徒が多く、興味をもって取り組むことができるが、「なぜそう感じたのか」という根拠を言語化することを苦手としていたり、言語化するための引き出しが少なかったり、知覚と感受を結びつけるところまで至っていない等の課題がある。

〈楽曲の価値〉

- ・文化祭の音楽祭で発表する合唱曲
- ・過去・現在・未来と場面を分けた歌詞の内容。また、歌詞の内容に合わせて強弱・速度・調性などが変化し、曲想の変化を掴みやすい曲。

〈教材化に向けて〉

- ・一人一人が自由に聴くことのできるパート音源を用意し、自分のペースでくり返し聴くことで、苦手意識を少しでも取り除く。
- ・楽曲を繰り返し聴いたり歌ったりすることを通して、曲想の変化やイメージをつかみ、イメージと音楽の要素を結びつけて表現の工夫を考えることができる。

〈グループでの追究について〉

- ・グループ追究により、仲間の考えを聴くことによって自分の考えが生まれたり、仲間との対話を通してイメージの根拠が言語化できたりする。
- ・目的をはっきりとさせ、話し合ったり意見をまとめたりする場面を設けることで、少しでも苦手意識を減らすことができる。

〈教師のねがい〉

- のびのびと声を響かせて歌う
- 音楽を形づくっている要素による曲想の変化に気付く
- 要素の働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、知覚したものと感受したことを結びつけて考える
- 「〇〇な合唱にしたい」という生徒の願いを達成できるような表現の工夫をした合唱
- 自分の意見をもって表現したり、仲間と話し合って考えをまとめたりする力をつける

3 本時案

(1) 主眼

自分たちの表現したい「時の旅人」を表現するために意識する音楽の要素（強弱、速度、調性など）を決め出した生徒たちが、強弱や速度に着目しながら、班で1つの場面の表現について工夫を話し合い、全体で表現の工夫を共有して歌い試す活動を通して、A～Dについて自分たちが目指す「時の旅人」の歌唱表現の工夫を考えることができる。

(2) 展開

- ①前時までの活動を振り返る 該当の場面について意識する音楽の要素を決め出した
- ②前時に決め出した要素を使って、自分たちの表現したい『時の旅人』にするための工夫を班で考える
- ③班ごとに考えた工夫を全体で共有し、歌声で表現する
- ④本時のまとめをし、振り返る

【事前授業を参観させていただいて】

8月31日に中川中学校、寺平有希先生による教育課程研究協議会事前研究授業が行われ、私も参観させていただきました。（題材名「曲想の変化を感じ取って表現を工夫して歌おう」 教材「時の旅人」 指導者：長野県総合教育センター専門主事 石田雄太先生）

授業学級の2年2組は寺平先生が学級担任を受け持たれているクラスで、終始温かい雰囲気のうちの1時間でした。生徒たちは、4つのグループに分かれ、それぞれに割り当てられた楽曲の部分について感じ取った曲想をもとに、表現の工夫を追求していきました。小グループに分かれての学習なので、各パートの人数が一人から三人と少なくなりますが、それでも生徒たちが協力しながら声を掛け合っただけで学習を進めていた姿が印象に残りました。寺平先生の生徒たちに学習を進めさせる上での手立てとして参考になったことが、楽曲から感じ取れる曲想とその曲想を生み出している楽曲を構成している要素がわかりやすく結びつけられて提示されていたことと、そのことを踏まえたうえで本時追究する要素がはっきり示されていたことです。例えば、曲のBの部分はさみしい感じになる。それは、短調で *mp* になるから、また、Cの部分で過去のことを振り返っている感じがするのはテンポが遅くなっているから、これらのことからこの時間は、強弱やテンポ、調性について追究し、工夫していこう、といった感じでした。生徒の皆さんも明確な課題意識をもって学習に向かうことができたのではないのでしょうか。

今回扱われた「時の旅人」では、強弱やテンポは作曲者が楽譜上に指定してあります。したがって、作曲者の意図を踏まえたうえで生徒たちの工夫したいことを表現していくというようなことがこれからの研究の課題の一つになるのではないかと、感想として抱きました。本番の授業では、外国の民謡を教材として取り上げられるということで、より自由な表現の可能性が生まれるのではないかと期待されます。今から授業が楽しみです。今回は、大変に勉強させていただきました。寺平先生をはじめ中川中学校の先生方、本当にありがとうございました。 箕輪中学校 深澤宏之

来週に行われる教育課程、寺平先生の授業、子どもたちの様子を参観させていただき、多くの先生方と語り合い、主事の先生のご指導をいただき学び合う機会が楽しみです。午後の時間も、研究部の先生方が「コロナ禍を経ての現在の音楽教育や歌唱・合唱文化について」ということで企画してくださっています。実り多き一日となると良いですね。